

第6回石狩市地域自治システム検討会議会議録

【日時】 平成26年1月28日(火)18:00～

【場所】 石狩市役所401・402会議室

【出席者】 竹口委員、池田委員、酒井委員、中島委員、貝田委員、嶋田委員、遠藤委員、
米倉委員、羽田委員、阿部委員、北原委員、廣長委員、高野委員、上ヶ嶋委員
(事務局 森本・山田・清水、畠中、門井)

【オブザーバー】 佐藤教授

【会議内容】

■次第1 開会

■次第2 議事

① 「基本的な方向性」の素案について

～ 事務局から、素案の説明 ～

≪遠藤委員≫

モデル地域の実証期間が2か年度に跨り1年間となっておりますが、2年間の実証となるのでしょうか。

≪高野委員≫

今年4月から準備を始めますと、実証実施は夏から秋頃となりますので、2か年度の期間内の1年間となります。

≪池田委員≫

資料の懸念事項ですが、私の連合町内会では、既に町内会に加入すること自体が不可能な町内会があり、町内会から脱落した地域もあり、近い将来、脱落する地域もあります。その地域の拾い上げの必要性を発言しましたが、資料に明記されておりません。

≪高野委員≫

資料に明記した懸念事項は、主なものであり、地域会議を立ち上げるときに、そのような地域を含めるかどうかは地域毎の判断になるかと思います。

≪池田委員≫

町内会でカバーできることはカバーしますが、冬場は天気が悪く、回覧板の回覧自体ができない。地域自治システムができ、参加して下さいと言っても参加ができない。その人達は、地域について発言する機会がなくなります。将来的に、石狩市内全域で実施することとなれば、不安が出てくる地域があると思います。

《竹口会長》

これは地域自治システムの問題でなく、行政サービスのあり方の問題であり、別な角度で検討して改善すべきものと思います。

《高野委員》

基本的に全地域をカバーするシステムが理想ですが、取り組める地域からスタートしていきたいと思います。懸念がある地域は、市として、その地域をサポートしていかなければならないと思います。

《北原委員》

町内会の加入の有無にかかわらず、抜けている地域があっても包含してまとめていかなければならないと思います。地域の分け方として、活動の中で手助けできることがあるのか、市に物を申すことと、少なくとも地域の皆様に声をかけ、課題を課題として捉えていけるようならないとだめだと思います。みんなで課題解決が出来るならば、私がやらなければならないということで定義されていく形態になっていくと思います。

《佐藤教授》

地域自治システムの地域会議での懸念事項はありますが、モデル地区で一回実証し、その実証で問題が出てきますので、モデル地区の段階でこのまま進めるのかという議論は今後行っていくことと思います。地域内の市民が集まり、議論し合うことが重要と思います。地域会議が設置されることにより、一つは地域をどうしていくのか、説明資料の3頁にあります具体的活動ですが、その地域で何を行うかを決定し、決定したことを実行することが一つと、大きく二つの事柄を地域会議の中で一緒にやっていくということが考えられます。地域会議や地域の中だけで完結してできることと地域の中だけで完結して支援を行うのが難しいという問題もあります。池田委員の意見のとおり、孤立してきた地域はどうするのかということをや所と詰めていかなければならないと、場合によって、一地域ではできないが、近隣地域と共同して行うことも問題や課題によっては考えられます。地域が自覚して進めていくことができることは良いことと思います。町内会の皆様方や活動団体の皆様方がそれをトータルで行っていくことに意義があると思います。

《貝田委員》

本格的に開始するときには市の窓口は、市民生活部でしょうか。

《廣長委員》

おそらく、市民生活部になるかと思います。

《佐藤教授》

本格的にスタートすれば、市役所も機構改革が必要と思います。

《池田委員》

地域会議の構成の中で、地域の団体や法人から推薦を受けたものとありますが、例えば、団体

は、全ての地域に加入することは可能でしょうか。

《高野委員》

基本的には、地域に在住や地域内で働いている方の条件付けが必要とっております。

《池田委員》

ライオンズクラブやロータリークラブなど良い人ばかりですが、同じ方向性を出して地域会議をコントロールすることが考えられますが、それが良いのか悪いのかという質問です。

《高野委員》

想定していません。

《池田委員》

地域内を横断する組織の人は考えられないということでしょうか。

《竹口会長》

地域内を横断しても、その地域に住んでいる方は対象になると思います。

《高野委員》

もう少し詳細の制度設計が必要と思います。

《竹口会長》

地域の目的から外れた行動や活動を実施されても困ります。

《高野委員》

ケースによっては、地域の活動に合致した団体もありますので、その場合に参加をどう求めるかについては課題とっております。

《池田委員》

意思決定機関や実行機関とありますが、市は、定足数など厳しい基準を設ける予定でしょうか。厳しくしなければきちんとしたものができないし、場合によって会議が成立しないことがある。

《高野委員》

今の時点では、数字的な基準は決めておりません。

《池田委員》

基準がなければいけないのでないでしょうか。

《高野委員》

基本的に、できるところから始めるという考え方であり、地域会議を構成する団体数などは、

最初から決めることができないと思っております。

《竹口会長》

一般かつ常識的な会則を作成してモデル地区で実証し、その実績を積み上げていくということが一番と考えております。

《高野委員》

モデル事業の開始時には、会則は作成しなければならないと思います。その時点では数字的なものは決めていかなければならないと思っております。

《貝田委員》

市側で会則案を検討してほしいと話しましたが、人数は、20人が必要な地域、15人の地域があり、また、10人の地域があると思います。これは地域の裁量に任せるものと思います。

《池田委員》

資料3頁の具体活動と見ますとそこまで厳しくする必要はあるのかと思い聞きましたが、活動内容はこの程度の活動でしょうか。

《高野委員》

これは、各団体が抱えている課題や今後取り組まなければならないと考えられるものであり、実際には、様々な意見が出ると思います。

《池田委員》

これは想定であり、具体的活動は地域で決めていいということですね。

《竹口会長》

これは、委員の意見をまとめたものであります。

《羽田委員》

モデル地域の選定の中で、市連協で、連合町内会を軸に、他団体との組織構成等が可能な1地域の選定を行う、このやり方が一番いいと思います。一方、町内会を1つの核にすれば、町内会活動が、さらに一つ出来るというイメージが拭えなく、市の様々な担当部局では、団体の色々なことを知っております。縦に繋がっておりますが、横連携があまり感じられません。市の行政内部では、様々な地域で様々な活動している情報は有していますが、町内会や各団体の情報を集めて他町内会や団体にその情報も入力して欲しいです。行政情報をいかにして集結していくことが、地域自治システムが上手に機能することと思います。担当部局では多くの情報をもっており、上手に集結して行けるかどうかと思います。

《竹口会長》

羽田委員の意見のとおり、役所の横断的な連絡会議を設け、受け皿の一つになっていただけな

ければならないと思います。

《羽田委員》

地域自治システムについて、自治基本条例を基にこの仕組みを構築するならば、行政内部がそれに沿った行革をすべきだと思います。様々な情報をどのように横に繋げていくのかが大事だと思います。こちらの担当はこう言い、あちらの担当はこう言うでなく、一つにまとまるものを構築して欲しいと思います。

《竹口会長》

要するに、ピッチャー1人とキャッチャー1人にして欲しい。キャッチャー1人にピッチャーが沢山いても、サイン交換もできません。市役所としても大きな宿題になるかと思います。

《貝田委員》

ここに明記している町内会は、旗振り役をお願いするということであり、地域を網羅して、旗振り役をやり、地域の各団体に行きという手間暇を考えると、現在の既存の組織の中で、連町を通じ、情報伝達や集約することが一番スタートしやすいという意味合いで理解をしていただければと思います。

《羽田委員》

情報は沢山あった方がいいと思います。一般市民は、もう一つ町内会をつくるというイメージを持つと思います。最初のモデル地域は、非常に大事だと思います。

《池田委員》

羽田委員の意見と地域の関係団体をどう考えていくという方向性はどのようなのでしょうか。先ほどの委員構成と羽田委員が話された整合性はどのように考えておりますか。

《羽田委員》

私のイメージは、町内会で様々な活動している方も入れば、小さな所で赤ちゃんの読み聞かせや高齢者の様々なお世話をしている人もおり、月に1回、何か集まりを持っている人もいます。それは、一町内会におらずばらばらにいます。行政がある程度把握して入れば、特にモデル町内会について、1個、2個でも重なり合っている、学校との連携もできている所で上手に重ねられるような地域が、私は選ばれれば良いと思っております。

《竹口会長》

地域会議を設置する際に、参考資料をいただき、そのような人達に幅広く意見を出していただければと思いますが、それは今後の課題だと思います。

《貝田委員》

花川南・北地区も学校単位で地域の方々が子供たちに対し、様々なことをしております。それらを組み込んだ際、花川南地区の学校に、花川北の住民がコーディネーターとして活動しており

ますが、地域自治システムに当てはめていくと、石狩市は1つでいいとなってしまいます。地域会議が設置されれば、積極的に参加して意見をいただき、その地域の中で取り上げてやっていただくことしか現状はできないのではないかと思います。

《佐藤教授》

役所では、様々な団体をそれぞれ各部署で把握しており、役所の中でその情報が一元化されていないというご指摘の問題。私もそうだと思います。石狩市に限らず、そのケースは沢山あります。役所側も一つにまとめて欲しいというのは、そのとおりの思います。モデル地域を選定する際に、連合町内会の核というところ強く感じる、言われてみるとそんな感じがします。軸と書いた方がいいかもしれません。趣旨は同じですが、町内会や各団体が有機的にまとめられそうな、現在は必ずしもそうになっておりませんが、地域会議を設置すれば、連合町内会と学校のPTAの他に団体があるかも知れません。それらの連携が可能になりそうな地域です。それを選んでいく努力を役所を含めて、皆様方は事情を把握しておりますので、その視点でモデル地域を選ぶことを考えていくべきだと思います。

《貝田委員》

地域では、様々な活動を実施している団体は多々あり、その中でも営利団体があり、また非営利団体もあり、参加の線引きはどのように考えた方がいいのか。例えば、高齢者対策でも業としての方が結構おります。地域自治システムの参加の線引きをどうしたらいいのかと思います。

《高野委員》

線引きはしておりません。対象外もどうかと思っております。

《竹口会長》

様々なご意見が出ましたが、この検討会議で素案を了承してもよろしいでしょうか。

～ 委員了承 ～

② 地域意見交換会の実施について

～ 事務局から、別紙2説明 ～

《貝田委員》

1回の実施であれば実施しない方がいいと思います。実施するならば、きめ細かに実施してほしい。

《竹口会長》

委員は、この検討会議に何回も出席しておりますが、初めての人は分かりませんので皮切りという意味で説明が必要だと思います。

《池田委員》

モデル地区の可能性のある地域で実施するのですか。

《高野委員》

モデル地区の選定が想定される地域が理想です。

《池田委員》

年齢構成や人口構成等の幅広い地域をモデルとしてやっていただきたい。日本の年齢構成と相違ない地域選定で実施しなければ他のエリアに広がっていかないと思う。花川北は年齢層が高い。現役世代のOBになった方が一生懸命やっているのは知っております。その地域は実施し易いと思います。さとり世代の方が沢山いて、町内会活動も苦勞している方がいる。折角実施するならば、標準的な地域を選定して実践した方がいいと思います。

《北原委員》

地域自治システムを想定される地域により細かに周知するための意見交換会であるのか、また、モデル地区を設定するために何箇所か想定される地域に入り、モデル地区になり得るものを見出すための意見交換会なのか、それにより選定方法も変わって来ると思います。できればモデル地区が想定される地域の多くの人に承知してもらった上で、行動していただく意見交換の方が、良いのではないかと思います。

《貝田委員》

地域自治システムを広くPRし、市民に知らしめる意味合いで実施して地域の意見を聞こうとするのか、実証の可能性のある地域を念頭に実施するのか、それであれば1箇所でもいいと思います。意見交換会となれば、幅広い方という意味合いもありますが。

《竹口会長》

これは、モデル地区の実証のため、1か所となっておりますが、モデル地区は2か所であれば2回実施することも可能と考えていいですね。

《高野委員》

結果を広く市民に知ってもらうには、全地域を網羅して説明会をしなければならないと思います。来年度に、モデル地区に着手する段階であり、そのための意見交換会と考えております。

《北原委員》

今、この一地域を決定する必要はないのでしょうか。

《竹口会長》

今ここで決めるのか、それとも別な機会に決めるのか。

《高野委員》

モデル地域は、この検討会議の地域意見交換会を2月か3月に実施し、その結果を3月の検討会議に報告し、一旦終了する予定とっております。その後、連合町内会と協議し、モデル地区の選定をさせていただこうとっております。

《北原委員》

竹口会長のお膝元の方が一番動きやすいし、会長自体が意識を持っているので、他の町内会長の意向があり決定はできないと思いますが、動いて行かないと思います。

《竹口会長》

花川北と花川南でそれぞれモデル地区があればいいと思います。花川南の連合町内会の会長に意見を聞いた上で、会長と貝田委員で相談してどのように実施していくかですが。

《貝田委員》

各町内会長に説明する義務があり、その説明の中で花川南の会長がどのような考え方を持っているのかをヒアリングしようと考えております。ぜひ竹口会長の地区で実施していただきたい。

《竹口会長》

中島委員も話しておりますが、1か所より2か所で実施した方がいいとっております。時間がありますから、立ち上がり遅くても1年後に、花川南と花川北それぞれ1か所ぐらい実施できたらと思います。

《北原委員》

事務局が竹口会長と十分に折衝していただき、モデル地区の説明の際には、意義がある意見交換会ができれば、効果があり、大事なことと思います。

《竹口会長》

花川北連町には話しておりませんが、若葉地区社協に話しており、中には早くやらないのかと言っている方もおりますのでいい時期だと私は思っております。町内会では足りませんので、地区社協で実施しないと、高齢者クラブ、民生委員も入っておりますので、後は、NPO法人など手を上げる方も入れていければいいかと思っております。

《北原委員》

色んな団体がありますが、ある程度関わりを持っている団体としてそこに参画できるかどうかですが。地域にたまたま団体の関わりを持ちながら住んでいるとか、関わっている仕事を持っているとか、その立場の地域で仕切らない、例えば、ライオンズという人たちが入っている人が入ればライオンズとして入っている訳ではないですね。

《池田委員》

地域の中で、住民票はないが、ぜひこの団体に地域会議に入ってもらいたい人がいれば検討会

議に入っても可だということになりますよね。

《北原委員》

団体や施設の関係者は、地域でそれなりに繋がりあり、参加されている。今回の地域自治システムは、地域自治を構成する人が地域の中で様々な課題を話し合い、物を動かしていくことが一番の柱であり、地域に関わりがあり、地域振興のための意見集約であり、活動の動きになると思います。

《池田委員》

私が最初に質問した一つの団体が地域会議に参加し、一つの方向性を出すような動きは不可という話であり、地域に関係がある人が参加すれば、例えば、私の地区では、工業団地があり、住民票ないが職場はあるという人達にも入ってもらわなければならないだろうと思います。

《竹口会長》

関わりをもっておりますので、様々な意見を出してもらえればいいことと思います。

《北原委員》

この地域に今後このような動きをしてほしいという意見は吸い上げなければならないと思います。

《竹口会長》

イレギュラーなケースをどのように扱うかはその時の状況と思います。

《羽田委員》

地域内に多くの世帯がある場合は、どのように広報するか、回覧板だけで実施するのか。例えば3月に実施するならば、3月広報紙も間に合います。町内会の回覧板は見ない人もいて、エリアが限定されてもきちんと広報すべきかと思います。

《高野委員》

地域意見交換会は、地域で活動されている方、地区社協も役員の方々を対象にしようと考えております。そのため、そのエリアに住んでいる方の全員対象の意見交換会は想定しておりません。

《羽田委員》

やっていることを示すことは絶対に必要と思います。私たちボランティアは、何をやっているのかと言われております。行政と話してこの仕組みを実施していることを示すことにより、関わりのない人達にも、意味が伝わる部分があり、これは大事と思います。折角すごいことやっているのですから、モデル地域でうまくいったら大したものと思います。

《北原委員》

今の話はすごく大事なことであり、一堂に集まり、話をすることは大変なことであり、地域の

人に何カ月にも一回くらい経過報告を行い、何らかの方法で情報を知らしめることは、これからは必要な要素を持っていると思います。

《貝田委員》

この意見交換会は、平成26年度からのモデル地区を想定し、その地域の人達にモデル地区として活動していただくため、意見を聴こうとする趣旨が強いです。この地域会議を広くPRし、広報することは、やっても構わないと思う。検討会議を開催していることを広く市民にPRすべきだと思います。月1回検討会議を開催し、開催内容はホームページに掲載しておりますが、第1回から第5回までの開催結果を見る人は、余程時間の余裕がある人であり、ほとんどの人はそこまで見ていないと思います。検討会議の検討趣旨、実施後のイメージ、街のイメージは検討しておりますので、PRは別途、市民に対し実施していく必要があると思います。

《羽田委員》

市民の知る権利として広報すべきです。私の町内会では回覧板が日程どおりに回らないです。不在の方がおります。終わった頃に来るという状態であり、回覧板が全然回らないと思っております。アナログな方法ですが、ホームページも見れない、何も見れない、一つ見るとしたら広報は全戸配布であり、それが届く方法の一つだと思います。新聞記事もありますが、淡々と載せていくことがモデル地区のきっかけになればと思います。

《北原委員》

地域の皆様に連絡しようと回覧版を回覧しますが、一割は見えていないことを念頭に置き、手元に残る方法がすごく伝わると思います。窓口がどこになるか決まっていない、地域には多くの団体や組織が一人一人に関わっている中で、課題で何かをしようとした時に、行政の事務局の体制の有り方は、すごく大きいと思います。どこかの部局が動く際、教育委員会など全部がこの動きに課題を持ちながら集約されてできるならばいいが、そうでなければ、窓口は全部の部局の機能が集まり、市の運営委員会事務局のような機能があればすごく大きいと思います。

《竹口会長》

貴重な意見です。市役所に宿題ばかりで申し訳ありませんが、これを成功するには必要だと思います。それでは、その他の意見も踏まえ、丁度時間が来ましたので、この辺で終了したいと思います。